

第6回次期生物多様性国家戦略研究会のテーマと主な論点

1. テーマ

「身近な暮らしに提供される自然の恵みの確保と自然に配慮したライフスタイルへの転換」

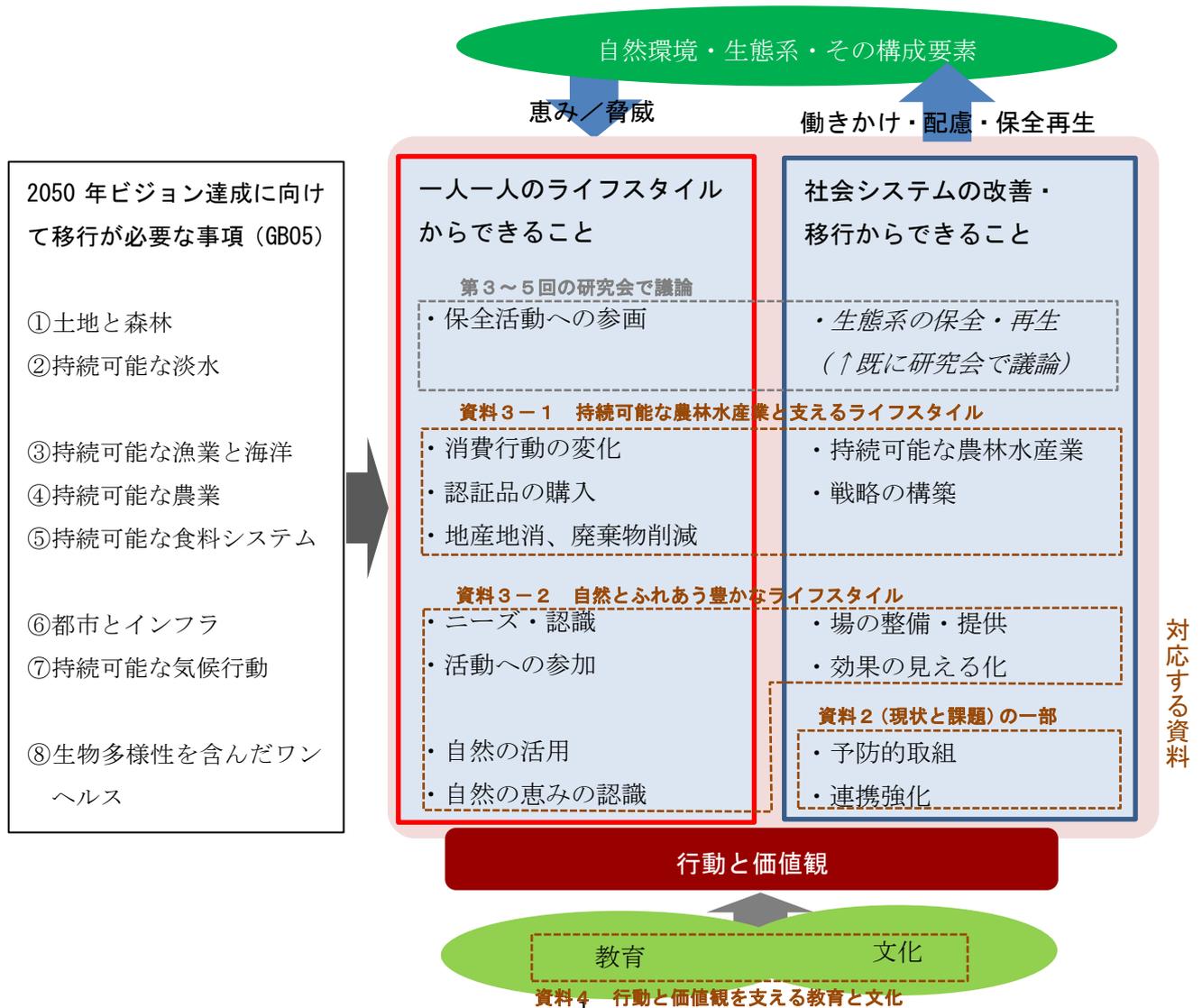
自然とのふれあいは、健康の維持管理に有用であることが明らかとなっており、健康で安全・安心な心豊かな暮らしの実現に向けた取組や、ライフスタイルの転換へとつなげていくことについて、議論する。

- 今回は、ライフスタイルをキーワードに、一人一人ができることやその選択のために社会システムの移行が必要なこと、これらの土台となる個人や社会の行動と価値観を支える教育や文化といった内容を議論。
- 地球規模生物多様性概況第5版(GB05)で示された2050年ビジョン(自然との共生)に向けて移行が必要とされた8つの事項を参考に資料を組み立てた。

別添1：各回のテーマ(第2回研究会資料4の更新)

別添2：GB05の概要

今回の資料構成と議論の流れ



2. 主な論点（議事3、4の各項目ごとに共通の議論のポイント）

①「2030 マイルストーン（状態）」

（現行戦略にはない）「2030 マイルストーン（状態）」として、どのような

- ・目標設定（状態）があるか。
- ・達成度合いを測る指標・数値目標の設定があるか。

②社会実装に向けた要素（ターゲット）

「2030 マイルストーン」に向け、各取組の社会実装を進めるために、どのような

- ・基本戦略・行動目標（10年間の重点的行動）や、方策があるか。
- ・その進捗・達成を測る指標・数値目標の設定があるか。
- ・指標のベースラインや、達成状況の解釈。

③参画・行動を促す要素

多様な主体の参画や行動を促進する要素として、どのような

- ・連携・協働に向けた実現条件があるか。
- ・行動を促す指標や数値目標の設定があるか。

④上記①～③に関するエビデンスや事例。

⑤上記②～③に関する生物多様性保全上の意義・程度。

⑥上記①～③と気候変動対策やポストコロナ社会との関係。

3. ポスト2020 生物多様性枠組等の検討状況

- ・現行の「生物多様性国家戦略 2012-2020」の点検評価（案）について、現在パブリックコメント中（12/27まで）。
- ・COP15は2021年5月からさらに延期される可能性がある（具体的な日程は未定）。COP15に向けた準備会合となるSBSTTA24/SBI3やOEWG3の具体的な日程も未定。